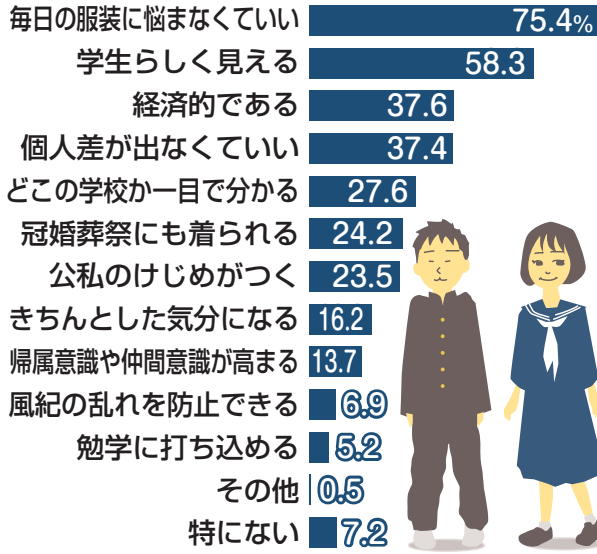


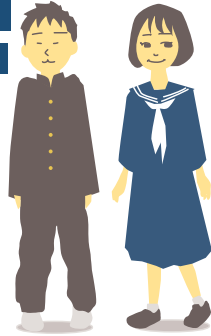
学ランやセーラー服といった制服。毎日学校で着ているという人もいます。でも、動きにくいとか、性別に関係なく着た

いという意見もあり、最近ではルールを見直す学校も。皆さんは学校に何を着て行きたいですか？
(熊崎末奈)

学校制服の良い点



※菅公学生服のインターネット調査から



くらしの中から考える

学校の制服

制服の始まりは明治時代。東京の学習院という、当時の小中学校で男子が着たのが最初とされ、海軍が着る軍服がモデルの「詰め襟」だった。女子は和服のはかまから始まり、大正時代にはセーラー服などの洋服が増えた。最初は学校に通えるお金持ちの学生だけが「エリート」の印として着ていた。昭和にかけて、学校に進学する人が増えて全国に広まると、今度

◆ ルール見直す動き

また、約九割の人が制服は必要だと回答。理由は、「毎日の服装に悩まなくていい」が最多で、「学生らしく見える」「経済的」などと続いた。グラフ参照。

一方で、最近では制服のあり方を見直すという動きもある。今年八月、東京都江戸川区に住む高校生が、区立中の制服を性別に関係なく選べる

◆ 始まりは明治時代

はみんなが同じ制服を着ることで、貧富の差を隠すという役割ができた。二〇一九年に学生服メーカーの菅公学生服(岡山市)が全国の十〜六十代の男女千八百人に聞いたアンケートでは約96%が学生時代に制服を着ていたと回答。男性は詰め襟(学ラン)が最も多く、女性はセーラー服とブレザーが多かった。

すでに服装を自由にした学校も。東京都世田谷区立桜丘中は数年前から、「自主性を重んじる」として、制服でも私服でも登校していいというルールに変えた。今は一、二年生はほぼ全員が私服で通う。私立の佐久長聖中・高校(長野県佐久市)は中学で月一回、高校で二回、私服でも制服でもいい「カジュアルデー」を設けている。教頭の平出淳史さん(五五)は「何事も自分で決められるようになってほしい」と話す。

調査で「必要」が9割

服装は自分で決める

お茶の水女子大特任講師の内藤章江さん(四四)は「なぜ制服を着るのか考えたり、話し合ったりすることが大事。ルールで決められていても、疑問を持つことは悪いことではない」と話す。大人になると、就職活動などで髪形やくつ、化粧を決まったスタイルにするよう求められることもあり、必要以上に周りに合わせ、苦痛を感じる人もいる。内藤さんは「制服を通して、自分が着るものに対して考えるきっかけにしてほしい」と語る。

皆さんの感想を送ってください。紙面で意見を紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼント。応募は〒460 8511 中日新聞(東京新聞)生活部「学ぶ」係=ファクス052(222)5284、メールsei katu@chunichi.co.jp=へ。QRコードからワークシート兼応募用紙もダウンロードできます。26日締め切り。